

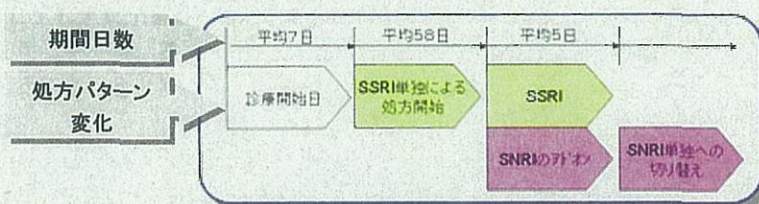
抗うつ薬: SSRI と SNRI のアドオン関係を探る

- ◆ 約 30 万人の外来レセプト(約 240 万枚)と調剤レセプトを突合したデータから、処方アルゴリズム・パターン分析を行いました。今回は抗うつ薬を事例に、SSRI と SNRI のアドオンの関係に注目した分析結果を紹介します。

(対象レセプト診療期間: 2004 年 12 月～2006 年 4 月)

- ◆ 処方アルゴリズム・パターン分析とは、①処方パターン変化を分析する、②実際の薬剤治療経緯を測定していく手法です。例えば、新規に医療機関を受診した「うつ病患者」に対し、最初の処方が SSRI 系薬剤(N06A4)単独であったとします。その後 SNRI 系薬剤(N06A5)が追加(アドオン)、さらに SNRI 系薬剤の単独処方へ切り替わる(スイッチ)、というような処方パターン変化の分析(①)、抽出された処方パターン間の期間日数の算出(②)ができます。以下に事例を示します(図 1)。この事例では、うつ病患者が受診 7 日後に「SSRI」の単独処方治療が始まり、その 58 日後に「SNRI」がアドオン、さらに 5 日後「SNRI」単独処方へ切り替わったことを指しています。(期間日数はこのパターンに該当する患者の平均値)

図 1.事例模式図



- ◆ 今回の抗うつ薬の分析結果では、1,592 名のうつ病患者で 226 の処方アルゴリズム・パターンが抽出されました。表 1 は一例です。三環系薬剤処方から始まり、4 回の変更の後、SSRI と三環系の併用になる処方アルゴリズム・パターンを示しています。

表 1.処方パターンの変化(パターン 1 から 5 へ変化しているケース)

投薬パターン1	投薬パターン2	投薬パターン3	投薬パターン4	投薬パターン5
三環系	SNRI 抗うつ薬 (+) 三環系	SNRI 抗うつ薬 (+) 三環系 (+) その他の抗うつ薬	SSRI 抗うつ薬 (+) SNRI 抗うつ薬 (+) 三環系 (+) その他の抗うつ薬	SSRI 抗うつ薬 (+) 三環系

さて、本題の SSRI・SNRI のアドオンに注目した分析結果です。うつ病の処方開始パターン(投薬パターン1)に SSRI 又は SNRI を含む患者は 1,247 名。残り 345 名は三環系・四環系などの薬剤を投与されていました。

簡単にアドオンの集計結果を紹介します。表 2 のように、

①SSRI 処方から始まり SNRI のアドオンや切り替えがなかつた患者が最も多く 905 名(73%)。一方④SNRI から処方され SSRI のアドオン・切り替えがなかつた患者は 226 名(18%)

でした。また、②SSRI 処方の後で SNRI のアドオン・切り替えがあった患者は 66 名(5%)。逆に⑤SNRI 処方の後で SSRI のアドオン・切り替えがあった患者は 39 名(3%)です。つまり、SSRI 処方からの患者の 6.8%に SNRI の、SNRI 処方からの患者の 14.7%に SSRI のアドオン・切り替えがあったことになります。

表 2.SSRI・SNRI のアドオン

①	SSRIから開始、その後継続	905	73%
②	SSRIから開始後にSNRIアドオン有り	66	5%
③	SSRIとSNRI同時開始	11	1%
④	SNRIから開始、その後継続	226	18%
⑤	SNRIから開始後にSSRIアドオン有り	39	3%
	合計	1,247	100%

- ◆ 処方アルゴリズム・パターン分析を行うことで、実際に起きている処方パターンの変化(アドオンやスイッチなど)をパターン化し、さらに処方パターン間の日数を集計することで、より実際の薬剤治療推移を把握することが可能になるでしょう。